

同意書

(造影CT検査)

貴医療機関
説明者：施設名

医師名

検査内容：造影剤投与によるCT検査

説明内容：検査の目的、方法、合併症、拒否の自由等を含む

説明文：

【目的】

今回施行するCT検査では、より詳細な情報を得るために造影剤という検査薬を使用致します。冠動脈CT検査は心拍数が低い方が良好な画像が撮れます。心拍数が高い場合は、β遮断薬という薬剤を使用して心拍数を下げる場合があります。また、冠動脈を拡張させるためニトログリセリンスプレーを口腔内に噴霧します。

【方法】

造影剤とは、ヨードを原料とする液体で、病変部を染めて判別しやすくし、病気を正確に評価するのに役立ちます。造影剤は静脈から注入しますが、通常は投与後24時間で尿として体外へ排泄されるため、体内には残りません。冠動脈CTで使用する静脈内投与のβ遮断薬は、およそ30分間で効果が消失します。

【注意事項等】

造影剤・β遮断薬の安全性は確立されていますが、稀に副作用が発生することがあります。造影剤の軽い副作用としては、吐き気、動悸、頭痛、かゆみ、発疹などで発生率2～3%と報告されています。造影剤の重い副作用としては、呼吸困難、意識障害、血圧低下などがあり、発生頻度は0.2%と報告されています。また、病状、体質によって非常に稀ですが10～20万人に1人の割合で死亡する場合があります。アレルギー体質や気管支喘息の方は副作用発現率が約3倍高く、腎機能障害のある方は造影剤で悪化することがあります。またビグアイド系の糖尿病薬を服用している方は4日間（検査前日から検査日含めた後3日間）服用を中止していただきます。造影剤注入中に血管外へもれた場合には痛みや腫れが出現しますが、普通は吸収されて消失します。

β遮断薬の軽い副作用としては、血圧低下（1.1%）や発疹（0.8%）などが報告されています。β遮断薬の重い副作用としては、同一の有効成分を含有する薬剤にて過度の血圧低下（0.05%）、心停止（0.1%）などの報告がなされております。万が一、合併症が起きた場合には最善の処置をいたしますが、その際の経費は原則として患者様のご負担になりますので、あらかじめご承知おきください。

心臓血管研究所付属病院長殿

年 月 日

私は、上記の検査について、その必要性、方法、発生し得る合併症などの説明を十分に受け、その内容を理解いたしました。つきましては、同検査を受けることに同意致します。

患者氏名

保護者または
代理人氏名

(患者との関係：)